

CDM 理事会第 28 回会合

2006 年 12 月 12 日－12 月 15 日 ドイツ・ボン

検討事項 (“Proposed Agenda and Annotations” 要約)

(原文は[こちら](#))

2006 年 12 月 12 日

CDM理事会検討事項の概要

- ① CDM-AP(信任パネル)関連では、複数の運営機関の有効化審査・検証・認証における信任を検討するほか、スポットチェックが行われた DOE の対処を決める。
- ② 方法論の検討については、3 件の新方法論の承認(A 判定)を含む Meth パネルの提案が検討される。A 判定のうち 1 件はモンゴルの ESCO 事業による省エネプロジェクト方法論。
- ③ プログラム CDM 「プログラム活動(programme of activities)」の定義と手続きを前回に引き続き検討する。
- ④ 追加性立証ツールの改定案を検討する。
- ⑤ 吸収源 CDM 関連では、新たに A/R WG より提案された 1 件の方法論の承認を検討する
- ⑥ 小規模 CDM 関連事項では、SSC-WG より提案された新カテゴリーの方法論「木炭製造におけるメタン排出回避」及び数多くの既存方法論の改定を検討する。
- ⑦ CDM プロジェクト登録、CER 発行については、レビュー申請が提起されたプロジェクトを検討しレビューを実施するか検討するとともに、レビュー済みのものはその結果をもとに対処を決める。

1. 運営機関の信任

2006 年 12 月 3－5 日に CDM-AP(信任パネル)が開催された。CDM 理事会では、信任パネル提出の第 15 進捗報告をもとに検討事項を審議する。

複数の DOE 候補について特定のスコープで有効化審査、検証・認証で信任するか決定する予定で詳細は機密。その他、CDM 理事会 26 回会合でスポットチェックが決定し、その後実施された 2 件の DOE の信任を一時的に取り消すか、そのまま維持させるか信任パネルの提案（内容は機密）をもとに審議する。

## 2. ベースライン及びモニタリングの方法論

Methパネル第24回会合がドイツ・ボンで2006年11月27日から12月1日に行われた ([Methパネル第24回会合レポート](#)参照)。CDM理事会ではMethパネルからの提案内容を検討する。

### 2-1. 新方法論提出状況

現在CDM理事会とMethパネルによる検討が進んでいる方法論については以下のホームページを参照 (<http://cdm.unfccc.int/methodologies/PAmethodologies/publicview.html>)。

#### (1) CDM理事会に承認を提案する方法論案 (A判定)

**NM0144-rev**: モンゴルESCO事業による省エネ

**NM0152-rev**: ブラジル主要系統から隔離されていた高炭素の電気系統を主要系統に接続するプロジェクト

**NM0186**: アゼルバイジャン既存水力発電所における意思決定サポートシステムの効率化による発電量増加プロジェクト

#### (2) 差し戻し提案する方法論案 (B判定)

**NM0161**: 南アフリカコジエネ

**NM0170**: インド肥料工場における排気からの二酸化炭素回収・工業利用

**NM0172**: 天然ガスパイプライン漏洩防止

**NM0174**: 中国廃棄物発電

**NM0176**: N<sub>2</sub>O 排出削減

**NM0181**: 中国地域熱供給

**NM0189**: 中国汚泥処理

#### (3) 不承認提案する方法論案 (C判定)

なし

#### (4) Meth パネルからプロジェクト参加者に改善を求める予備提案 (Preliminary recommendation) が提案された新方法論

**NM0155-rev**、**NM0157-rev**、**NM0159-rev**、**NM0165-rev**、**NM0192**

#### (5) Meth パネルで検討が終わらず次回に決定が持ち越された方法論案

**NM0141-rev**、**NM0150-rev**、**NM0171**、**NM0178**、**NM0179**、**NM0180**

(6) 検討が保留となっている方法論案

**NM0142-rev**

2-2. 承認済み方法論の改定

プロジェクト参加者やDOEからの問い合わせやインプットを受けて、Methパネルは**AM0001** (Methパネル第24回会合レポート**Annex4**参照)の改定のほか、**AM0002**、**AM0003**、**AM0011**、**AM0013**、**AM0022**、**ACM001**、**ACM008**、**AM0028**、**AM0037**、**ACM0010**の軽微な変更を提案。CDM理事会はこの見直し提案を検討する。

2-3. ベースライン選定と追加性立証ツール

既存の追加性立証ツールの改定案 (**CDM理事会第28回会合アジェンダAnnex2**) を検討する。前回合意した“combined tool” (追加性立証ツールとベースライン選定ツールを一体化させたもの)に整合するものとなっている。

2-4. プログラム CDM

前回に引き続き「プログラム programme of activities」、「政策policy」の定義オプション案と一つの活動として登録するための手続き案 (**CDM理事会第28回会合アジェンダAnnex3**) を検討する。同案では、プログラムCDMを更新しないクレジット期間とすること、単一の方法論の適用に限ることとしている。

2-5. その他

「承認方法論の改定手続き」案 (**CDM理事会第28回会合アジェンダAnnex4**)、COP/MOP2 決定書で言及された事項 (方法論適用の拡大、小規模プロジェクトにおける追加性立証事例など) の指針を検討する。

3. 吸収源 CDM 関連事項

12月3日から5日に開かれた吸収源CDMワーキンググループ第11回会合の提案 (**A/RWG第11回レポート**) を検討する。

3-1. 新方法論提出状況

(1) CDM 理事会に承認の提案をする吸収源 CDM 方法論案 (A 判定)

**ARNM0015-rev** ブラジル 産業用木材供給のための再植林

(2) 差し戻し提案 (B 判定)

**ARNM0026** コスタリカ 小中規模農場での炭素隔離、

**ARNM0028** マダガスカル 木片製造のための荒廃地における再植林

(3) 不承認提案 (C 判定)

ARNM0013-rev 再植林、

ARNM0030 牧草地における商用再植林

(4) A/R WG よりプロジェクト参加者に対して明確にすべき点を指摘する旨合意した新方法論案(Preliminary recommendation)

ARNM0020-rev、ARNM0029

(5) A/R WG での検討が終わらず次回に持ち越された方法論案

ARNM0012-rev、ARNM0021-rev

3-2. 方法論改定

AR-AMS0001 の改定案を検討する。

3-3. その他

- 吸収源プロジェクトのベースライン選定について検討する
- COP/MOP2 での決定事項 (土地の適格性決定に関する CDM 理事会の過去の決定の提  
要を保留、小規模吸収源プロジェクトの定義見直しにかかる意見募集の要請など) に留  
意する
- 土地の適格性立証手続きの新しい方法についてパブリックインプットを募集する

4. 小規模 CDM 関連

12月4日から6日に開催された小規模CDMワーキンググループ(SSC WG)第8回会合の報告と提案内容([SSC WG第8回会合レポート](#))を検討する。

4-1. 新カテゴリー「III.K木炭製造におけるメタン排出回避」の提案([SSC WG会合レポートAnnex1](#))

- 同カテゴリーの適用には、
  - ピット木炭製造からのメタン排出を、メタン回収・フレアリング(もしくは燃焼)の新設備のもとで木炭製造することによって削減するプロジェクトであること、
  - プロジェクトの結果、メタン以外の GHG 排出量に変化が生じないこと、または捕捉されていること、
  - プロジェクトの実施によって木炭製造のためのバイオマス原料が変更されないことが条件となる。

#### 4-2. 方法論の改定

以下の小規模方法論の改定案を検討する。

AMS III. E ([SSC-WGレポートAnnex2](#))、AMS III.G ([同Annex3](#))、AMS I. D ([同Annex4](#))、AMS I.C ([同Annex5](#))、AMS I.A ([同Annex6](#))、AMS II.D ([同Annex7](#))、AMS III.H ([同Annex8](#))、AMS III.I ([同Annex9](#))、AMS III.F ([同Annex10](#))

#### 4-3. 複数のタイプを有するプロジェクトについて

○複数の要素を有するプロジェクト (例:「メタンの回収」と回収メタンを利用した「発電」の2要素を有するメタン回収・発電プロジェクト) の定義を (PDDガイドライン内の) CDM glossary of termsに追加することを提案 (CDM Glossaryの改定案は[SSC-WGレポートAnnex16](#))。

○複数の要素から成るプロジェクトにおいて、そのうち同じタイプに属する要素の合計は各タイプにおける小規模 CDM の定義\*を超えないこととするを提案。

○複数の要素から成るプロジェクトでも PDD は1つでよいことを提案。ただし、当該 PDD において、それぞれの要素についてタイプやカテゴリー、技術に関するセクションや適用する方法論に関するセクションは分けて記述することとする。

\*COP/MOP2 で決定した小規模 CDM の新定義：

- タイプ I プロジェクト：最大出力 15MW までもしくは同等の再生可能エネルギープロジェクト (変わらず)
- タイプ II プロジェクト：年間 60GWh 相当分までの供給側もしくは需要側の省エネプロジェクト (従来は上限が 15GWh)
- タイプ III プロジェクト：年間 60,000 トン CO<sub>2</sub>-eq 以下の排出削減をもたらす上記 I・II 以外のプロジェクト (従来はプロジェクト排出量が 15,000 トン未満、かつ年間排出削減量が 25,000 トン以下)

#### 5. CDM プロジェクトの登録

登録のためにこれまで提出されたプロジェクトに関する情報は[こちら](#)。

2006年12月11日現在、登録プロジェクト数は428件。

#### 5-1. 登録申請にレビューリクエストが提出されたプロジェクト

CDM 理事会では、今会合前にレビューリクエストが申請された 20 件のプロジェクト (<http://cdm.unfccc.int/Projects/review.html> の「EB28」の 20 件) を検討し、レビューを実施するかそれともレビューなしで登録を承認するか決める。レビューを実施するのであればレビューのスコアを話し合うとともに、レビューチームを結成する。

【対象プロジェクト（カッコ内はレファレンス番号）】

ブラジル埋立地メタン(226)、チリ糞尿メタン(457)、メキシコ糞尿メタン 3 件(463、538、542)、ブラジル小規模水力(489)、エジプト埋立地メタン(508)、インド排熱発電(515)、メキシコ風力(517)、南アフリカ埋立地メタン(545)、インドバガスコジェネ 2 件(552、581)、インドコークス炉ガス発電(556)、中国風力 2 件(561、576)、インド小規模風力 2 件(570、571)、インド尿素プラントの省エネ(587)、インドバイオマス発電(591)フィリピン糞尿メタン(605)

5-2. レビューチームのレビュー結果

レビューが完了した 4 件のプロジェクトにつき、レビューチームの結果を検討する。

[http://cdm.unfccc.int/Projects/under\\_review.html](http://cdm.unfccc.int/Projects/under_review.html)

【対象プロジェクト】

インドのセメント製造 (454)、インド HFC 破壊 (499)、インド小規模水力発電 (522)、ブラジル小規模水力 (530)

5-3. 過去に修正の条件付で登録が認められたプロジェクト

CDM 理事会第 25 回会合において、修正を条件に登録が認められたインドのバガスコジェネプロジェクト(348)について、CDM 理事会が求めたとおり修正が行われたか検討する。

6. CER の発行・CDM 登録簿

CER の発行状況は[こちら](#)。

2006 年 12 月 11 日現在、22,446,305 CERs が発行された。

6-1. CER 発行レビュー申請があったプロジェクト

1 件に提起されたレビュー申請を検討し、レビューを実施するか、申請された CER を発行するか決定する。

【対象プロジェクト】

インドセメント製造工程における燃料転換プロジェクト (339)の 22,290CERs

6-2. 修正が完了し CER 発行再申請されたプロジェクト

レビューの結果、修正という条件付で CER 発行が認められたプロジェクトのうち、再申請があった 3 件を検討する。

【対象プロジェクト】

スリランカの小規模水力(085)の 107,008CERs、ブラジル埋立地メタン回収・発電の 808,887CERs、インドのセメント製造におけるクリンカ効率化プロジェクトの(183)の

225,534CERs

7. その他

2006年11月のCOP、COP/MOPとともに開催されたSBSTAにおけるCDM関連議題の議論の報告を受ける予定（HFC23関連、ITL関連）。

そのほか、資金面等CDMの運営計画、関係主体（DNA、DOE、政府間機関、NGOなど）との意見交換の計画・結果、COP/MOP2のCDM関連決定書への対応について話し合われる予定。

以上